



学 習 院 大 学 史 料 館 ミ ュ ー ジ ア ム ・ レ タ ー

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.44

発行日 ● 令和3年(2021)2月15日

ごあいさつ

学習院大学史料館は、小説家・辻邦生の関係資料を数多く所蔵していますが、その中には、辻邦生の配偶者であり、初期キリスト教美術やビザンティン美術などの研究者として知られる辻佐保子(名古屋大学・お茶の水女子大学名誉教授)の資料も含まれています。本ミュージアム・レターで紹介するのは、故辻佐保子教授が海外の調査先で撮影した、約1万6千点の美術作品等の貴重なスライドのデジタルアーカイブ化と目録作成のプロジェクト(2017年10月～2020年3月)についてです。この事業によって、辻佐保子という美術史家の思索の理解が、ますます進展することが期待されます。プロジェクトに助成をいただいた公益財団法人鹿島美術財団に厚く御礼申し上げます。(史料館長・水野謙)



昭和50年(1975)3月 辻佐保子
アルジェリア・ティバサ遺跡にて(調査スライドより)

故辻佐保子教授旧蔵貴重スライド デジタルアーカイブ化と目録作成

学習院大学文学部哲学科教授／プロジェクト研究代表者
島尾 新

辻佐保子先生のスライドをデジタル画像化する話が持ち上がったのは2017年の3月だった。私の専門は室町時代の水墨画で、先生が研究されていたキリスト教美術やビザンティン美術などとはまったく関係がない。本来なら東大時代の教え子だった高橋裕子先生(学習院大学名誉教授)が中心となるべきところ、ちょうどお引きになるタイミングだったので、名前だけの代表者となった。

敢えて理由を探せば、まだ東京国立文化財研究所に就職したの頃に、人文科学の分野では始まったばかりの「電算化」(もう死語に近いが)に関わっていて、佐保子先生から仲間たちとともに「コンピュータ・ポーズ」とからかわれたことがあった。定年も近づく頃になって、また「電算化」絡みでお会いできたのが、なにかのご縁だろうか。

デジタル化したスライドは、フランス・イタリアからトルコ・ロシア・チュニジアにわたる約1万6千点余。今も建つ教会や修道院とそれらの壁画などのイメージは、つい「同じ物の古い写真」と思われがちだが、そんなことはない。「美術史」は、作品が生きてきた・見られてきた歴史を記述するもの。佐保子先生のスライド群も、写っているものたちの「生命誌」を編むための貴重な伝記資料なのである。

そんなドキュメントの多面性は、お寄せ頂いた素敵な文章に散りばめられている。伊藤怜さんがフェレンティッロの修道院の「エルサレム入城」の壁画を、武田一文さんがカッパドキアの様相を、活き活きと描き出すように、写しとどめられたイメージは、劣化や破壊を含めて作品の「定点観測」のひとつであり、木俣元一さんが、ヴェズレーのキリスト像のスライドに、佐保子先生の深く鋭いまなざしを読み取り、瀧本みわさんが先生の手帳から跡づけるように、研究者の足跡と営為をリアルに記しとどめる「研究史」の一部でもある。そして加藤磨珠枝さんが、ブルーストのデッサンのスライドから、佐保子先生と姿は見えぬ辻邦生の創作の世界へ入り込むように、美術史研究者にとっての作品写真は——つい撮影者の位置に自分を置いてしまいがちながら——さまざま実感させ想像を掻き立ててくれる最たるものなのである。そんなノスタルジーと研究史の交錯は、米倉立子さんの語りのとおり。門外漢にとっては、そんなこんなを見聞きするのが楽しかった。

さて、デジタル化によって、情報は保存されたが、それらを共有のためのプラットフォーム作りはこれからである。

年代	辻 佐保子(昭和5年(1930)～平成23年(2011)) 略歴
昭和25年(1950)	3月、愛知県立女子専門学校英文科卒業。4月、東京大学文学部美学美術史学科入学
昭和28年(1953)	3月、同大学卒業。4月、国立近代美術館調査科に就職(→10月、退職)
昭和29年(1954)	4月、東京大学大学院人文科学研究科修士課程(美術史学専攻)入学(→翌3月、修了)
昭和32年(1957)	4月、東京大学大学院人文科学研究科博士課程(美術史学専攻)入学。10月、フランス政府給費留学生として渡仏、パリ大学高等学術研究所に在籍
昭和36年(1961)	10月、パリ大学に博士論文を提出、美術史の博士号を取得
昭和41年(1966)	4月、フランス政府招聘研究員として渡仏、パリ大学高等学術研究所に在籍
昭和46年(1971)	11月、名古屋大学文学部美学美術史学科助教授(→昭和51年(1976)教授)
昭和57年(1982)	『古典世界からキリスト教世界へ—舗床モザイクをめぐる試論—』でサントリー学芸賞
平成元年(1989)	4月、お茶の水女子大学文教育学部哲学科教授(→平成8年(1996)3月退官)
平成7年(1995)	イタリア政府より国家功労賞カヴァリエーレ・ウフィツィアーレ章
平成15年(2003)	フランス政府より教育功労賞オフィシエ勲位章。9月24日、佐保子の尽力により夫妻が借りていたパリ・デカルト街のアパルトマン壁面に滞在記念のプレート設置される
平成16年(2004)	地中海学会賞。『辻邦生全集』の刊行に精力を注ぐ(～平成18年(2006))